

平成26年度 進路指導全体計画

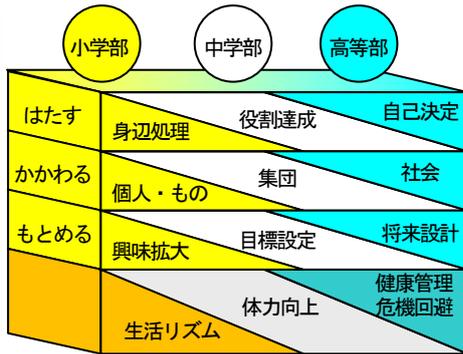
学校教育目標			
一人一人の障害の状態及び特性等に応じた適切な教育を行い、健康で人間性豊かな児童生徒を育成する。			
・ じょうぶで、元気な児童生徒	・ 明るく、すなおな児童生徒	・ 仲良く、助け合う児童生徒	・ くじけず、がんばる児童生徒

保護者や地域の願い
・学校を卒業しても、児童生徒が安心して生活できるようになってほしい。
地域・企業との連携
・現場実習等を通しての、施設・企業との協働。
・個別の教育支援計画策定を通じた関係機関との緊密な連携。



「志教育」との関連
志教育の目標 ・児童生徒一人一人が将来の生活に夢と希望を持ち、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を知り、自立した生活を主体的に求めていく意欲、態度を養う。 【人と「かかわる」】 【よりよい生き方を「もとめる」】 【社会での役割を「はたす」】
児童・生徒の実態
・小中学部の障害の重度化・多様化とともに、高等部生徒数の増加及び、比較的障害の程度が軽い生徒も増加している。
教師の願い
・個別の指導計画による一貫性、連続性のあるきめ細かな指導を行って、障害による学習上や生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識・技能・態度や習慣を養いたい。 ・児童生徒が自分の思いを確かにし、主体的に生活していこうとする力が身に付くよう育みたい。

進路先（就労・施設）からの要望
【学校で身に付けてきてほしい事柄】
・ 基本的な生活習慣（身辺処理）
・ あいさつ、コミュニケーション
・ 基礎的な応答力（報告、連絡等）
・ 体力
・ 余暇利用
・ 意欲、目標、モチベーション



【本校進路指導のねらい】

充実感のある学校生活の積み重ねによって、夢と希望に満ちた卒業後につながるよう、将来、社会で求められる事柄と各学部段階での学習内容との関連を明らかにして、系統的に積み上げていく進路支援が行われるようにする。

	小学部	中学部	高等部	卒業後
生活・学習場面と育てたい力	【生活に必要な力】	【集団生活や働くために必要な力】	【社会生活や働くために必要な力】	
	◎達成感や集中・持続力 ○あいさつ、身辺処理、基本的な生活習慣の確立（日生・自活） ○経験による興味・関心の拡大（遊び・生単・音楽）	◎働く意義や喜び ○コミュニケーション、身だしなみ、基本的な生活習慣の定着（日生・自活） ○体験的、総合的な学習を通して学ぶ、個々の目標設定力や課題処理力（生活単元学習、施設見学・体験）	◎働く意欲・モチベーション ○主体的なあいさつ、時間を意識した身辺処理、自己の役割の理解と実行（日生） ○活動に見通しを持つ力、共同性、協調性（生単） ○地域を知る、公共交通機関や公共の場の利用、共同性、協調性（総合的な学習の時間・生活実践） ○巧緻性、集中力、持続力、協力性（作業） ○基本的な生活力、働くことへの理解力、社会人としての意識（職業） ○コミュニケーション力、指示理解力、判断力と実行力（職場実習）	自立と社会参加へ 豊かな人間関係へ 余暇 趣味の広がりへ やりがい・ 充実感へ
	○健康保持、体力づくり（日生・遊び・体育・自活）	○体力の保持増進、集団活動への意識の育成（体育・自活）	○健康の保持増進、8時間労働に耐えうる体力（保健体育）	健康的な生活へ
進路先との関連	○施設・福祉サービス等を利用する。 ・放課後等デイケア、ショートステイ利用 ・施設行事への参加 ・ヘルパー利用	○作業体験を通して体験内容と作業学習のつながりを知る。 ・施設見学・体験 ・デイサービス交流活動 ・デイケアサービス利用	○職場実習を通して自分の進路を自己選択し、決定する。 ・施設実習 ・作業製品/バザー ・デイサービス交流活動	地域・社会の一員としての実感へ 仕事 役割 地域交流
	【利用を通して施設等を知る】	【見学・体験を通して施設や進路を知る】	【実習等を通して進路を選択・決定する】	